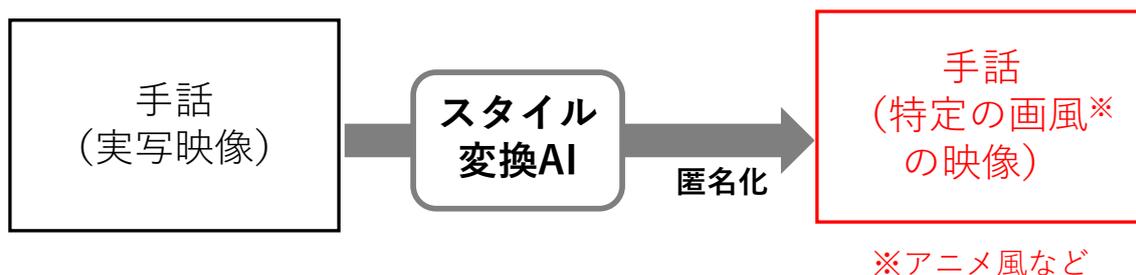


実写映像から手話 CG を変換生成する技術の開発

身体の状態や能力の違いによらず、誰もが必要な情報を容易に取得可能とするため、情報アクセシビリティの向上が求められています。耳の聞こえない人たちの中でも、手話を第一言語(母語)とするろう者にとっては、第二言語(日本語等)の文字情報ではなく、情報取得に手話を選択できることが望ましいと考えられます。しかし、主要な情報取得手段である手話通訳士の数は不足しているため、CG アニメーションによる手話提示技術(手話 CG)の実現が期待されています。

任意の日本語文から手話 CG を生成する手話翻訳の研究が NHK 放送技術研究所で進められています。様々な映像コンテンツに手話を付与可能な手話翻訳ですが、CG 生成の過程ではデータ化された手話動作(モーションデータ)が必要となります。手話動作のデータ化は特殊なカメラを備えたスタジオで行われるため、モーションデータ作成に要するコストが課題となっています。

NHK 財団では、より低コストな手話提示技術の実現を目指し、手話話者の実写映像をアニメ調など特定の画風に変換する技術(スタイル変換 AI)を用い、モーションデータが不要な手話 CG の開発に取り組んでいます。スタイル変換 AI により生成した手話 CG は、話者の匿名性確保や、特定の画風による提示が可能であり、さまざまなサービスに活用できます。



実写映像から手話 CG を変換生成する技法